

シグマ研究委員会

昭和57年度第1回運営委員会議事録

日 時 昭和57年6月4日(金) 13:30～17:30
場 所 三会堂ビル(東京都港区赤坂)9階第1会議室
出席者 原田(委員長, 原研), 白方(動燃), 梶山(東北大), 関(雄)(MAPI),
中嶋(法大), 山本(FBEC), 田中, 松浦, 五十嵐, 菊池(原研)
オブザーバー: 土橋, 松本, 浅見(原研)

配布資料

1. 前回議事録(案)(57.3.26)
2. シグマ特別専門委員会(57.5.7)議事録(案)
3. 57年度旅費使用計画
4. IAEA Advisory Group Meeting on Nuclear Structure and Decay Data
(Utrecht, the Netherlands, 11～14 May 1982)
5. BNL・NNDC(National Nuclear Data Center)主催「熱中性子炉ベンチマ
ーク計算・技術・結果及び応用セミナー」(BNL 1982年5月17日～18日)
6. JENDL-2
7. Japanese List for INDC "L" and "U" Distribution
8. Japanese List for NEANDC "U" Distribution
9. CINDA distribution list for Japan
10. 医学用原子・原子核データ・ワーキンググループ(案)
11. 核データ・炉物理合同特別会合のテーマ(昭和54年3月～57年3月)
12. Proposed Subjects of Japanese Reports for Seminar on Fast Reactor
Physis
13. How About Cross Section Adjustment ?

議 事

1. 前回議事録確認
資料により確認を行った。
2. 本委員会(シグマ特別専門委員会)議事録確認
本委員会の議事録は、慣例により運営委員会で確認をすることになっているの

に伴って、資料2により確認を行った。

3. 事務局報告

(1) WGメンバーの追加

三谷 浩氏（原研，JENDL積分評価WG）と萬代新一氏（石川島播磨重工業，核融合炉・遮蔽定数WG）がWGメンバーとして追加申請のあったことが報告され了承された。

(2) 旅費使用計画（浅見）

資料3によって57年度の旅費使用計画（案）の説明があり，了承された。

(3) 23回NEANDC会合準備（五十嵐）

近く準備を始めるとの報告とともに協力方の要請があった。

(4) プロGRESS・レポート（五十嵐）

7月20日締切りで原稿募集の通知を出したことが報告された。

4. IAEA Advisory Group Meeting on Nuclear Structure and Decay Data 出席の報告。

松本氏から，資料4を用いて標記の会合について報告が行われた。今回の会合までの経緯，Mass Chain Evaluationについて各国の作業状況，今回の会合での話題等について説明があった。（詳細は省略）

5. JENDL-2の現状報告

浅見氏から，資料6によりJENDL-2編集の現状について説明があった。その中でJENDL-2の編集は今後，ファイル作成WGで行うが，未編集データのファイル化を急ぎ8月末に公開する目標で作業を進めると報告された。

6. BNL-Thermal Reactor Benchmark Seminar 出席報告土橋氏から資料5を用いて標記セミナーでの討議内容について説明があった。（詳細は省略）

7. 遮蔽定数サブWGの作業計画

菊池氏から，炉定数専門部会内の核融合炉・遮蔽定数WGの遮蔽定数サブWGで行う遮蔽ベンチマークについての作業計画の説明があった。その中で，来年日本で開催される第6回国際放射線遮蔽会議に，JENDLを使った遮蔽ベンチマークテストについて発表するためにRADHEAT Version 4を用いて計算を行うが，この作業のためにWGメンバーを追加したいとの話があった。これに関連して，JENDL-2のFPファイルの作成に支障はないか，WGメンバーを無制限に増やすことは問題がある。disk等についてJENDLの編集作業と競合しないか等との議論があったが，作業計画については了承された。また，WGメンバー

に萬代氏の他に橋倉氏（東大炉）も追加することにした。

8. 本委員会の宿題

5月7日の本委員会からの宿題として、諮問・調整委員会への検討委託事項をまとめる件について議論を行った。長期計画に限った方がよい、WGは分歧し過ぎているので見直す必要がある、運営委での長期計画の議論は不十分で、何時も話題になるが一向に煮詰らない等との意見があり、次回の運営委で諮問事項の具体案を作ることにした。

9. 学会特別会合

楢山氏から、核データ・炉物理合同特別会合の過去（昭和54年3月～57年3月）のテーマ（資料11）について説明があり、本年秋（10月9日～10日）のテーマをどうするかについて議論を行った。遮蔽国際会議、アントワープ会議、NEACRPが候補に挙げたが、具体案は次回に検討することにした。

10. 研究会

本年度の研究会の準備について議論を行い、次のようにすることにした。世話人には村田氏（NAIG）、関（泰）氏（原研）に打診してみることにし、基調テーマの候補を検討してもらうが、必要に応じて各専門部会から各1名が加わることにする。実験関係の話をできるだけ多く加えるようにする。

11. 配布リストの検討

五十嵐氏から、INDC資料の配布リスト（資料7）、NEANDC資料の配布リスト（資料8）、CINDA配布リスト（資料9）について変更すべき点があったら、1カ月以内に五十嵐氏まで連絡して欲しいと要請があった。

12. 医学用原子・原子核データWG

原田氏から資料10により医学用原子・原子核データWGの設置理由、WGの作業内容、作業期間、WGメンバー等について説明があった。これに対して質疑応答があった後、WGの発足は了承された。また、このWGは便宜上、核構造・崩壊データ専門部会内に置くことにした。

13. 日ソ高速炉会議への論文提出

白方氏から、資料12により日本とソ連の専門家会議にJENDLのベンチマークテストの結果を提出したことが報告され、了承された。

14. データのadjustmentについて

関氏から資料13によりJENDL積分評価WGで飯島氏（NAIG）が提案したcross section adjustmentについて説明があり、この問題の検討をWGで続け

ることが了承された。

次回は7月13日（火）13：30より東海研で行う予定。